

1. 評価報告概要表

作成日 平成19年10月22日

【評価実施概要】

事業所番号	1174300507
法人名	ケアサプライシステムズ株式会社
事業所名	グループホームやまぶき
所在地	367-0026 埼玉県本庄市朝日町3324 (電話) 0495-23-1300

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成19年10月10日

【情報提供票より】(平成19年9月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 3 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	5 人, 非常勤 3 人, 常勤換算6.2 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り 1階建ての1階部分
------	---------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	54,000 円	その他の経費(月額)	15,000円 + 実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	60 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(9月25日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名		
要介護3	2 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 89 歳	最低	81 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中村医院・もろおか歯科クリニック
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

静かな住宅街の中に建つ平屋建てで、デイサービスが併設されている1ユニットのグループホームである。個室は8畳と広く、ゆったりとして明るく清潔感がある。個人を尊重し、型にはめないケアを目指し、各利用者が自分のペースで生活できるよう支援している。利用者一人ひとりが大切にされており、自分の家で生活しているようである。職員は立場に応じて継続的に広く内外の研修を受け介護技術の向上を図るとともに、相手を思いやる心を大切にしている教育が行き届いている。運営推進会議の取り組みが熱心になされ、自治会長や民生委員からの意見やアドバイスも多く、地元の行事への参加もでき、ホームが地域のものとして受け入れられてきている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営理念は地域密着型の新しい標語に再編成され、廊下やリビングに明示された。入浴は週2回以上とし、AED(自動体外式除細動器)を設置、消防署から使い方の講習を受けた。施設は事故、防犯の両面から意識的に残された。家族会の立ち上げにはまだ至っていない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>月1回のホームと本社との会議で自己評価について検討し、ホーム全体で自己評価に取り組んだ。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>2ヶ月に1回開催し、自治会長、民生委員、管理者、事業所本部、家族は3人ずつ交代で出席しており、議題は事前に知らせている。今までに、施設のこと、地震発生時のこと、火災の避難訓練、AEDの使い方について検討し、祭り参加時の歩道の選考、トイレの場所等についてもアドバイスをを得ている。前回の外部評価結果についても報告し、新しい基本理念も説明している。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>月1回、家族が利用料金を支払いに来訪の際、管理者が直接、意見や苦情を聞き対処している。共有性の高い内容については、運営推進会議で討議する。現在、ホーム内に意見箱の設置も予定されている。事業本部では無記名アンケートを取るなどした。指摘が記入されず、その後は実施していない。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>運営推進会議には民生委員が3~4人参加し大変熱心に意見をだしてくれる。また、自治会に加入しており、回覧板で地域の情報も把握でき、地元の祭りなどの行事にも参加させてもらった。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの役割が重要視されたことにより、職員全員で意見を出し合い、理念を「住み慣れた地域で安心して暮らす」という標語に作り変えて、利用者の暮らしを支援している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員が、理念をよく理解しており、職員同士同じ視点で支援できるよう、コミュニケーションを第一にして、必要に応じ連絡ノートを使うなどして、ケアに対する考え方を確認し合っている。月1回カンファレンス、職員会議を行って、個人を尊重したその人らしい暮らしを支援するよう努力している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議が開かれるようになってから、急速に地域との関係が近くなったと実感している。自治会に加入したことで、回覧板も回ってくる。また、自治会長や民生委員からは、老人会や利用者の作品の展示場として、郵便局のフロアの利用等の情報を得ている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	月1回、やまがき会議を開き、現場と本社間の話し合いがあり、前回外部評価の結果や今回の自己評価について検討し、サービスの向上につなげている。運営理念は地域密着型の新しい標語に再編成され、廊下やリビングに明示された。入浴は週2回以上とし、AED(自動体外式除細動器)を設置し、消防署から使い方の講習を受けた。施設は事故、防犯の両面から意識的に残された。家族会の立ち上げにはまだ至っていない。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催している。民生委員は4～5人、管理者、事業所本部、市職員、家族は3人ずつ交代で出席し、議題は事前に知らせている。今までに、施設のこと、地震発生時のこと、火災の避難訓練、AEDの使い方等を話題とし、祭り参加時の歩道の選考やトイレの場所等についてもアドバイスを得ている。前回の外部評価も報告し、新しい基本理念も説明している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームで起こった救急搬送、縫合以上の切り傷、骨折については、市に一報を入れ、その後、事後報告しているなど、日頃から市との連携がとれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月1回、家族が利用料金を支払いに来訪の際、利用者の日頃の暮らしぶりを報告したり、ホーム便りを渡している。職員の異動はホーム便りに載せている。また、暑中見舞いを出したり、話で報告することもある。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	通常は管理者が直接話を聞き解決を図っている。また、入居契約時に、苦情窓口を説明している。会社としては、一度、他の施設を含め全体の無記名アンケートをとり、家族の意見、苦情を募ったこともある。現在、ホーム内に意見箱設置が企画されている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動については利用者によく説明している。職員は辞めてからもホームによく来訪しに来てくれている。家族へは、ホーム便りで職員の異動を知らせている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で実践者研修会が開かれ、車椅子やベッドへの移乗介護の実技の基礎を勉強した。法人内外の研修参加は立場や習熟度により種類は異なるが、全員が研修を受ける機会を持ち、お互いにシフトを融通し合って受講している。職員は働く意欲を持ち、利用者への支援の質の向上へとつなげている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の地域密着型の発表会や北部地区の同業者の協議会での研修会で、事例報告や精神科医師の講義を受講したりしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>契約前に利用者、家族に面接をしたり、ホーム内で他利用者と過ごしていただき、会話や職員の誘導で馴染みの関係ができるよう支援している。病院からの入居を希望している場合には、職員が病院に出向いて利用者、家族と話し合いを行っている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者は職員を信頼している。また、職員は利用者に対し人生の先輩として謙虚な気持ちを持って接し、支援している。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時、家族から生活歴等を聞いてアセスメントを取り、普段の暮らしの中では、本人との会話や、月1回家族が利用料金を支払いに来訪したときに希望等を引き出している。また、家族からは運営推進会議の時に伺うこともある。常に職員同士で話し合い、一人の考えでは判断していない。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>家族との面会時にカードに意見等を書いて頂いたり、本人と家族と話し合っている。全職員が参加してカンファレンスで検討した上で、介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回定期的な見直しをしている。利用者の状態の急変等で支援内容が合わなくなってきたらそのつど見直し、新しい計画を作成している。見直しの際は本人、家族と意見交換をしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	24時間の健康管理を保证する医療連携体制に努めているが、ホームとして看護師の確保は困難な状況であり、また協力医院の訪問看護ステーションの利用は、週1回のみとなっているなど、利用者の状況に応じた支援体制は築けていない。	○	今後病院からのアドバイス等により、柔軟な支援ができるよう期待したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関への受診は職員が付き添うが、個人的に継続しているかかりつけ医への受診は家族に付き添ってもらっている。ホームへの定期的な往診はない。運営推進会議で往診の要望があり、その時は、一時的に個人への往診がなされた。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	職員の勤務体制、家族の意見、主治医との相談、訪問看護の問題等、解決すべき複数の問題があり、重度化や終末期へ向けた対応は今は考えていない。	○	利用者が住み慣れたところで最期まで安心して暮らせるよう、重度化した場合や終末期のあり方について、全職員で意見交換をしてみたいかがか。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者を「○○さん」と呼んでいる。また、トイレや入浴の支援は、男女別々に行われており、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないよう注意している。記録等は2年以上で破棄しており、家族から同意を得ている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりをよく知ることを心がけ、その人のペースに合わせてゆったりと支援している。午後にはホーム内に大正琴の音が流れてきた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ある利用者は「いただきます。」「ごちそうさまでした。」と大きな声であいさつし、食事をしていた。食事も全員がおいしく食べて完食をされていた。片付けは利用者が自分から進んで行っていたりと、自主性を大切にされた支援がされている。冗談が出るほどの和やかな食事風景であった。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回、午後に入浴する機会があるが、週2回以上入浴を希望する利用者もいる。入浴を楽しめるよう、入浴剤で変化をつけるなどの工夫をしている。入浴を拒否された方に対しては、カンファレンスで入浴誘導の成功事例をあげ、よりよい入浴介護について検討し、実践している。		朝風呂や夜間入浴等、本人のこれまでの生活習慣や希望にあわせて入浴できるよう、職員ローテーションの工夫をされることを期待する。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりが各自の役割(テーブルふき、洗濯物たたみ、お花をいける等)を行うのを職員は見守りながら一緒に行っている。利用者一人ひとりができそうな役割をケアプランに盛り込んでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者が図書館、美容室等へ行きたいと言えば外出の支援をしており、個々に対応している。散歩などで近くの公園まで行き、外気浴を楽しんでいる。車椅子対応のリフト車を用意したので、歩行困難な方も外出がしやすくなった。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営推進会議で施錠について話し合われたが、現状では事故等の問題、不審者進入の危険性も考慮に入れて、施錠が必要と考えており、ご家族も施錠を希望している。利用者が外に出たい場合は職員が付き添い、自由に外に出ることができる。また午前10時には外のテーブルでお茶を飲んだりもしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	対策は運営推進会議で話し合われている。避難場所を自治会館とし、近所の人と共に年1回消火器の使い方等について消防訓練を受けている。今後、消防訓練は年2回行うことに決まった。火災報知器は消防署に直接つながっており、地震時はボタンを押すと、監視カメラが作動し、消防、警察への連絡を自動的に察知判断して通報してくれるなど、設備面も整備されている。消防団や民生委員への協力を依頼している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりに合った食事量のチェックや十分な水分補給を心がけている。食べる量や栄養バランスの良い食事作りに努めている。		
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に珍しい蘭の鉢があって注目されている。利用者が折った菊の花やススキの穂など季節に合った折り紙の作品をボードに飾り、季節感を出せるようにしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使っていたタンスや椅子など使い慣れた物を持ち込み、心地良く過ごせるようにしている。		